

第 30 回 NIE 全国大会(神戸大会)報告書

時代を読み解き、いのちを守る NIE

1 分科会に関する報告

校務のため、報告者は 8 月 1 日(大会 2 日目/会場：甲南大学 岡本キャンパス)からの参加となった。以下、発表を聞くことができた、2 つの実践について報告させていただく。

(1) 灘中学校 池田拓也教諭/狩野ゆき司書教諭「すべての学校に新聞データベースを！～環境整備は大人の責務～」(実践発表)の場合

①実践の概要

今回実践発表された池田教諭(社会科)は、「学校と社会をつなぐ」ことを念頭に様々な授業実践を重ねられている。特に 2019 年度からは、中学 3 年生公民科授業の中で、地域で様々な課題解決に向けて活動されている NPO 法人の方々と生徒をつなぎ、生徒たちが自ら問いと仮説を立て論証し発表する、探究型の授業を行われている。池田教諭は、探究型授業における「テーマ設定」の際に新聞記事(新聞データベース)の検索を生徒に勧められている。2024 年度には、朝日新聞・読売新聞のデータベースに加え、より生徒にとって身近な神戸新聞のデータベースにアクセスできるよう環境を整えられた。司書教諭の狩野教諭からは、灘中学校の学校図書館の環境および新聞利用指導の様子(新聞紙面に関するレクチャー、演習ワーク「シンブリオバトル」、学期に一度の地方新聞の一斉展示)について説明がなされた。

②発表について

実践発表については、以下のような時間配分で行われた。

| 8 分 | 12 分 | 10 分 | 25 分 | 25 分 | 7 分 | 7 分 |
|--------------|-------------|------------------|--------------|------|-------|-----|
| 学校紹介 自己紹介 | 実践内容の 紹介 | 学校図書館で の取組の紹介 | 新聞各社への 提言 | 質疑応答 | 助言者より | 講評 |

配布物等は特に無く、大会資料集とスライドをベースに、池田教諭と狩野教諭が交互にお話しされた。発表内容については、大会資料集の記載内容を、実体験を踏まえながら、写真等を用いて分かりやすく説明されていた。特に現行の新聞データベースの問題点・改善点(各新聞社のデータベースを共有化し、検索方法を簡潔にする等)について、その場にいる新聞関係者の方々に提言されていたことが興味深かった。特に新聞の「アーカイブ機能」は探究活動に有効であることも強調されていた。

(2) 兵庫県立神戸高校 松井洋平教諭「「神高探究 I」における新聞の活用～ジェンダー、東アジア、人権問題～」(実践発表)の場合

①実践の概要

神戸高校は 2022 年度から、1 年生「神高探究 I」1 単位、2 年生「神高探究 II」2 単位の時間を設定し、探究的な学びを実践するプログラムを実施されている。2024 年度から NIE 実践指定校となったため、9 月・10 月に図書室に新聞を設置し、神高探究 I の時間を中心に探究活動に利用した。次の 4 つのテーマ「メディアから見るジェンダー問題」「メディアから見る東アジア認識」「メディアから見る人権意識」「「哲学、言語学、社会学」メディアは「事実」をどのように伝えているのか」を教員が設定し、記者派遣事業を活用しながら、探究活動を実践されていた。

②発表について

実践発表については、以下のような時間配分で行われた。

| 5 分 | 40 分 | 5 分 | 25 分 | 5 分 | 10 分 |
|-------|---------|-----|------|-------|------|
| 学校紹介等 | 実践内容の紹介 | まとめ | 質疑応答 | 助言者より | 講評 |

配布物等は特に無く、大会資料集とスライドをベースに、松井教諭(地理歴史科)がお一人でお話しされた。発表内容については、灘中学校と同様に大会資料集の内容を写真等を用いて分かりやすく説明されていた。神戸高校が取り組んでいる探究的な学びのプログラムに関する説明を詳しくされるとともに、論説委員の方にお話を聞いたことで生徒にどのような学びがあったのか解説されていた。

2 全国アドバイザー会議に関する報告

アドバイザー会議については、以下のような時間配分で行われた。

| 5 分 | 10 分 | 25 分 | 45 分 | 15 分 | 15 分 | 5 分 |
|------|------|--------------|-------|--------|------|------|
| はじめに | 自己紹介 | 全国大会の感想・意見共有 | 交流・討議 | グループ発表 | まとめ | 事務連絡 |

約 70 名の全国アドバイザーが、日頃の活動や実践にあたっての課題を共有するとともに、「防災×情報」にフォーカスした実践について交流・討議を行った。小・中・高と学校段階による大体 4 人 1 組のグループであったため、活発な意見交流をすることができた。関口コーディネーターのまとめでは、新たな NIE の 4 分野の話を聞くことができ、全体的に充実した会議であった。

3 広島大会に向けての課題と展望

分科会だけの参加となったが、神戸大会に参加した気づき(感想・広島大会に向けての展望)をあげたい。

○全体会の講演者、パネル討議の登壇者、ゲストが充実しており、オンライン開催以降最多(1800 名)の参加者数にもつながっていたのではないかな。また、非常に多くの公開授業及び実践発表が行われており教育やメディア関係者の様々なニーズに答えることができていたのではないかな。

○ポスター発表については、展示数が多い一方で展示場所が限られていたため、ポスター作成者との情報交換等の交流が難しかった。ポスター発表については事前の精選がもっと必要ではないかな。

○広島大会では、神戸大会ほどの発表数の確保は難しいものの、実践指定校については大会 HP に発表動画を上げたり、大会資料集に体裁を合わせた実践報告書を書いた方がよいのではないかな。

○NIE はこれまで多くの授業実践が重ねられているため、発表者は先行実践を把握した上で、学校それぞれの独自性を出すとともに、色々な学校が自分たちもやってみようと思わせるような工夫が必要ではないかな。また、新聞を学習に取り入れる意義についても強調することが重要ではないかな。

○神戸大会では、発表者同士の繋がりをあまり感じられなかったのが、広島大会では、大会テーマを共有するとともに、お互いの発表(1 部と 2 部の繋がり、同じ校種間の繋がり)を意識することで、より大会としての一体感が出るのではないかな。

2025 年の神戸大会をはじめ、これまでの全国大会における大会運営や公開授業・実践発表・ワークショップ・ポスター発表等を参考に、参加した意義や充実感を感じてもらえる第 31 回 NIE 全国大会(広島大会)にできたらと強く感じている。

(広島大学附属中・高等学校 鶴田輝樹)